

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌
 住所: 川崎市麻生区上麻生 6-40-1
 柿生中学校内
 電話: 044-988-0004(柿生中学校)
<http://www.kakio-kyodo.com>
 第69号

なぜ^{古代}_{中世}麻生に酪農がおこなわれていたのか

～ 麻生本郷の乳牛役の意味するもの ～

柿生文化58号に、南北朝時代(14世紀)の武蔵国麻生郷の本郷(現在の上麻生、国領付近)に乳牛役(乳牛を飼い、酪製品を献上する役)が免除されていたこと、そして麻生郷では、古代から乳牛が飼育され、乳牛から「蘇(そ=牛乳を煮詰めチーズ状にしたもの)」を作り、朝廷に献上していたことが推測されるということを書きました。

そこで、次なる疑問が出てきました。それは確かに「蘇」は、古代より貴族の中では薬として珍重されてきましたが、なぜ武蔵国麻生郷でそれを作らなければいけなかったのかということです。近くには石川牧(現横浜市青葉区元石川付近)が存在し、牧畜として比較的良好な条件がそろっていた場所は麻生郷以外にもたくさんあったはず。「蘇」を朝廷に薬として献上するという以外に、麻生郷に「蘇」の需要が他にもあったのではないかと考えられないでしょうか。

新撰姓氏録(9世紀に作成された古代の氏の系譜書)によると、牛乳が日本の歴史書に登場するのは7世紀中頃(飛鳥時代)孝徳天皇の時代で善那使主(ぜんなのおみ)が天皇に牛乳を献上し、和薬使主(やまとのくすしのおみ)の姓(かばね=称号)を与えられたと記されています。そして文武天皇4年(700)に全国に「牧」を開発させ牛馬の飼育を命じています。やがて奈良時代(710～794)になりますと牛乳から「蘇」を作ることが義務付けられ貢蘇(=蘇を朝廷に献上する)の制度が確立するなど「蘇」は国家的にも重要な意味を持ち始めます。

そのように考えますと「蘇」は薬用だけではなく別の重要な使われ方もあったのではないかと推測されるのです。唐僧鑑真が来日の時、大量の「蘇」を持参したことが分かっています。時代が下がりますが鎌倉時代末期の『花園天皇宸記(はなぞのてんのうしんき)』に「遠江国(とおとうみのくに=静岡県西部)から貢蘇があつて一壺の蘇を不動明王護摩修法(木を焚いて不動明王に祈ること)のため密教寺院に下賜された」という記述があります。一方、密教修法の方法を調べてみますと、護摩焚きの際には「蘇」が必要不可欠であることが記載されています。これらのことを考えますと「蘇」は薬用だけでなく、寺院で行われる護摩焚きの際にも使用されていたことがわかってきます。どんな使われ方をしたかという、どうも修法の護摩焚きの際、油脂分の多い「蘇」を火中に振り込み火勢を強め、修法力を高めたということが考えられます。「蘇」と密教の修法が深い関係にあるということになりますと、麻生=「蘇」=真言密教=真言宗の古刹王禅寺・東光院の関係が繋がってくるではありませんか。麻生に昔、酪農がおこなわれ「蘇」が作られていた理由として有力密教系寺院との関係が浮かび上がってくるのがわかります。

参考資料:「新撰姓氏録」「密教大辞典」「古代日本のシルクロード」 (文:板倉)

平成
26年度

柿生郷土史料館「友の会」会員募集

当館の運営費用は「友の会」会費で賄われております。多くの皆様のご支援が必要です。なにとぞ、ご協力のほどよろしくお願いいたします。(現在「友の会」会員は160個人・団体)

- ◆会員の種類 ・一般会員(年会費 2000 円) ・賛助会員(年会費 3000 円) ・法人会員(年会費1万円)
- ◆会員の期間 ・平成26年4月1日～平成27年3月31日(1年間)
- ◆申込方法 ①セレサ川崎農協東柿生支店に振り込んでいただく
 - ・現会員の方:ご自宅、団体に振込先記入済みの振り込み用紙を郵送します
 - ・新規にお申し込みの方:振り込み用紙に下記の振込先をご記入の上お振り込みください
 (金融機関)セレサ川崎農協 東柿生支店 (振込先)柿生史料館代表 久保倉良三 (口座番号)普通 0013802
 - ②直接史料館へ開館日にご持参いただく(会費、氏名・住所・電話番号、会員の種類を同封ください)
 - ③お近くの史料館支援委員に直接お渡しいただく(内容は同上)
- ◆その他
 - ・お申し込みは3月末日までをお願いいたします
 - ・3月までにお申し込みの方には4月より「柿生文化」を郵送します

感謝！柿生郷土史料館の活動にご支援いただいている法人をご紹介します 61法人(順不同・敬称略)

- 月読神社●琴平神社●王禅寺●常安寺●浄慶寺●麻生総合病院●アルナ園●柿の実幼稚園●さらプロダクション
- 三共エステート●柿生恒産●虹の里養護施設●フィッシュ・オン王禅寺●たま日吉台病院●川崎信用金庫柿生支店
- 青戸建材店●JAセレサ川崎●大平屋●ガジノヤ●志田電子製作所●朝日ホーム●柿生保育園●山義産業●観財
- 奈良工業●丸和企画印刷●栄和●麻生自動車●リック設計企画●レストヴィラ王禅寺●レストランベル●カラオケゆう
- 粕谷住宅資材●スズユウ商事●広東商事●ノジマNEW鶴川店●石野電気柿生店●プライマリー●松屋●尾作住宅
- 尾作材木店●誠和産業●ティーエムコーポレーション●小料理わかば●リフォームイケダ●志村建設●荒川電気工事
- 北島工務店●花島商事●孝友商事●神奈川トヨタ自動車●ガスト柿生店●和光大学●ゆりストア王禅寺店●とん鈴
- 美容院ルシル●サイトー農芸●菊川園●フラワーショップまさば●栄運輸●ゲオホールディングス

シリーズ

「麻生の歴史を探る」 第39話

板碑 その2

小島 一也 (柿生郷土史料館相談役)

日本最古の板碑は埼玉県北部、江南町から出土した嘉禄3年(1227)銘のものだそうですが、それからわずか十数年の間に、前述のように寛元2年(1244)の鴨志田をはじめ、久末、岡上に大型の板碑が建立されました。続いて宮前の有馬に元亨3年(1323)蔵骨器を伴う数基の碑が発見されており、久末・有馬・鴨志田・岡上と都筑丘陵独特の鶴見川本支流で造り出す谷戸谷戸村々村々が他の地に先んじて板碑初発の地となっていることがわかります。このことは当時のこの地方の仏教文化(阿弥陀信仰)の高さを表しています。

このように多摩丘陵は板碑の多い地域といえます。板碑は墓地から発見されることが多いため、単純に追善供養のための墓石と考えてしまいがちですが、それだけではなく、生前に自分自身の極楽往生を願い、それを仏陀にすがり碑を造る逆修(ぎゃくしゅ=生前に功德を積むこと)供養というものも多かったようです。

この逆修供養の板碑は時代を経るに従い、供養の対象、造立者が変わっていきます。川崎市史によると、暦応4年(1341)高津区千年の岩川不動の板碑には阿弥陀の種子が刻まれ、銘文に見られる「罪深い悪人も極楽往生」を願意の逆修供養の碑もあるそうで、その造立者も当初の武士、僧侶、有力者から、結衆と呼ぶ一般庶民に及びました。その傾向は寛正5年(1464)、麻生区黒川の月待板碑にも見ることができます。

横浜、川崎は板碑先発の地と述べました。それでは隣の稲城、町田市などはどうなのでしょう。調べてみると稲城市最古の板碑は永仁3年(1295)造立銘のある百村(黒川・坂浜隣接地)の松本家所蔵の高さ46cm、幅28cmと比較的小型ですが、市内で245基確認されています。なかでも平尾(古沢の隣接地)から出土した板碑には銘文に金泥が残っていたそうです。町田市の最古は本町田(金井の先)矢沢家裏山から発見された建治2年(1276)のもので、高さ77cm、幅22cm、阿弥陀如来像が刻まれた典型的板碑です。これは現在町田郷土資料館に収蔵されていますが、町田市内の板碑は全部で634基が確認されています。それらの造立年代を考えますと、この地方の板碑は都筑から多摩へと伝わったことを表しています。



法雲寺の図像板碑

これらの造立年代を考えますと、この地方の板碑は都筑から多摩へと伝わったことを表しています。

板碑はその時代、その地方の庶民の生活文化を知る上で貴重とされていますが、麻生区内には市資料によると135基が確認されています。その造立のピークは室町時代の1361年ごろで、前記岡上の碑のほかにも多くの貴重なものが発見されています。

高石法雲寺の板碑は、弥陀来迎板碑と呼ぶ、板面中央に飛雲に乗る阿弥陀如来像と2体の菩薩が刻まれた図像板碑です。高さ77cm余、幅3cmで、阿弥陀信仰の貴重なものとなっています。また王禅寺所蔵の板碑は、明治の廃仏毀釈にもかかわらず信仰が絶えなかったため、時の警察がこれを押収しました。ところが警察署内に疫病が蔓延したので板碑の崇りに違いないと丁重に寺に戻された逸話(現古老の話)があります。その霊験ある板碑は、今はひっそりと観音堂境内の小祠に収められています。

また、細山伊藤家の裏山から20~30基に及ぶ板碑が出土し農民の阿弥陀信仰が偲ばれます。上麻生滝沢家には文安3年(1446)に同家が阿闍梨(修廣寺の僧)の名で造立した板碑(市教委託)があります。永正5年(1508)造立の金程伊藤家の月待板碑は市内最終のもので、現在は日本民間家園に移され民俗資料となっています。

参考資料:「横浜・川崎・町田各市史」「麻生区の神社と仏閣」「高津郷土資料集(坂本彰)」



渡田観音堂の古碑



稲城市妙覚寺の板碑

シリーズ 黒船来航

開国秘話 (5)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

◆最初の日米交渉◆

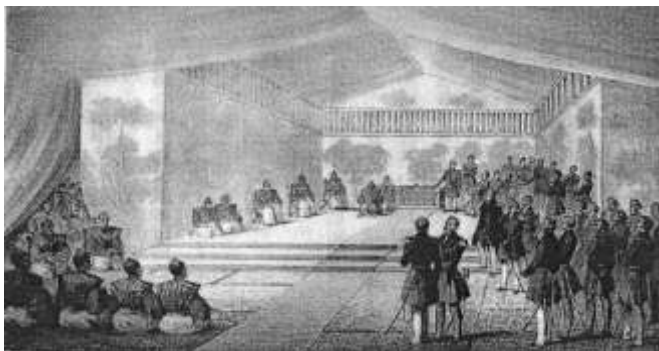
既に記しましたが、ペリー艦隊が日本を目指してアメリカ西海岸を出航したのは、1852年の11月24日です。日本に到着したのは翌53年の7月8日(当時の日本暦では6月3日)、国書の受け渡し完了したのは、その6日後ですから、この間6ヶ月半の月日を要しています。

オランダ語通詞の堀達之助と、与力の中島三郎助の訪問に始まった日米交渉がまとまり、幕府が久里浜で米大統

領国書を受け取ったのは、ペリー来航から6日目の7月14日(日本暦6月9日)のことでした。

この間、日本側にも色々なことがありました。それは幕閣の中枢以上に、沿岸警備の任を担っていた川越藩など、黒船と直接対峙した武士や、近隣の漁民などにとって、大変なことでした。沿岸警備の湾岸では夜を徹して松明が灯され、嚴重な警備が行なわれましたが、夜9時にサスケハナ号が時報を鳴らすと、あたりは1時騒然となり、松明も全て消される一幕もありました。単なる時報でも、聞き慣れない轟音を脅しと誤解したのです。真っ黒な蒸気船を始めてみた恐怖心が良く分かる一幕です。

一方で、黒船襲来の噂は、瞬く間に全国に及び、異常なほどに多数の瓦版が発行されました。そのうちの一部は現存しているのですが、中には多色刷りのものもあります。川柳や狂歌も多数作られました。当時の日本人がいかに驚いたかが、伝わってきます。



久里浜における米大統領親書の奉呈(同上)

しかし、久里浜での国書の受理とは、幕府も上手い手考えたものです。ペリー一行に日本に上陸したという成果を与えながら、江戸の土は一切踏ませない妙案でした。久里浜には、素早くしつらえた仮設の応接場を設けて、接待までしています。

この場でペリーは、幕府の正史戸田伊豆守氏榮、副使井戸石見守弘道の兩名に、大統領国書を手渡し、来航の目的を簡単に述べると、「国書への返答は、来年受け取りに来る」と述べて、あえて幕府に即答を求めず、以後3日にわたって、周辺を探索しただけで帰路につきました。この間、僅か9日の滞在でした。

◆ペリー艦隊の弱点◆

6ヶ月以上の時間をかけ、地球を半周してやってきながら、僅か9日間の滞在で、しかも具体的な交渉も行わずに引き上げたのです。当然そこには何か大きな理由があるはずですが。

実は、ペリー艦隊の売り物、当時の最先端技術の塊である黒船(蒸気船)には、重大な欠点があったのです。それは石炭の補給が断たれると自由に動くことが出来ず、巨大な漂流物に成り果ててしまうことでした。

当時の国際法は、2国間の戦争が起きた場合、第3国が中立を宣言すると、交戦国の船は、中立国の支配下にある港(当然植民地等を含む)に入港できなくなると定めていました。日米が交戦状態に入れば、イギリスが真っ先に中立宣言をすることは確実でしたから、当然ペリー艦隊は物資の補給が出来なくなります。

既に、イギリスの消極的な妨害工作にあって、ペリー艦隊は僅かな燃料や水、食糧しか積んでいませんでした。長くは浦賀沖に滞在できない制約を持っていたのです。

大統領からの砲撃禁止令、蒸気船に必要な石炭の不足、そして日本と戦争状態に入ると、イギリスの発する中立宣言によって、アメリカの艦船は中国へ立ち寄りたり、食糧や燃料などの提供を受けられなくなるという三重苦を、ペリー艦隊は抱えていたのです。

こうしたペリー側の重大な弱点の一部を、幕府側は見抜いていました。翌年再度来航したペリー一行との交渉に活躍した林大学頭は、当時幕府の学問所である昌平坂学問所の代表(今風に表現すれば、東京大学総長にあたります)で、弟子と共に漢文の文書係として、任に就いていました。

「ペリー艦隊は、補給線を持っていない。従って今回は長居は出来ず、焦っている」と、林大学頭の弟子の1人が、書き残した記録が残っています。ペリー側は、交戦を避けつつ交渉せざるをえなかったのです。その弱みを、幕府側はほぼ正確に把握していたのです。

(続)

方言は文化(2)

◆◆川崎にも方言が……◆◆

神奈川で使われている関東方言・新方言

柿生文化67号では川崎市で使用されている方言を紹介してみました。今回は、神奈川県内でよく使われている関東各地発信の方言と、川崎から関東全域の若い世代でよく使われている新しい方言を一部紹介してみます。

	標準語	方言	備考
関東方言	捨てる	ウッチャル	《千葉県⇒関東全域》平安時代から使用されていた。「打やる」が変化したもの。
	片付ける	カtas	《関東全域》関東全域で一般的に使用されている。
	取り替える	トッカエル	《千葉県⇒関東全域》「うるさい」が「ウッセイ」に変化と同じ。
	～しかない	～ツキヤナイ	《関東全域》「ひとつツキヤナイ」「やるツキヤナイ」「行くツキヤナイ」
	塩辛い	シヨッパイ	《東京⇒関東全域》江戸時代には使われていた。東海道膝栗毛にも登場。
	高い	タケー	《関東全域》「悪い」⇒「ワリー」、「すごい」⇒「スゲー」
	落とす	オッコトス	《東京⇒関東全域》「落ちた」⇒「オッコチタ」
新しい方言	～らしい	～ッポイ	《関東全域》「駄目ッポイ」など
	違った	チガカッタ	《関東全域》普通は「高かった」のように形容詞に使用する
	割り込み	ヨコハイリ	《神奈川・東京》最近では「ズルコミ」も登場。
	定規・物差し	センヒキ	《神奈川・東京》最近では標準語を使う場合が増える。
	怠い(だるい)	カッルイ・カッラー	《神奈川・東京》体が怠い場合だけでなく、仕事をもどかしい人にも使う。

上記の方言は、必ずしも川崎市に限定されるわけではありません。多くは関東全域にわたる方言と言ってよいでしょう。ご覧になられた方は「まさかこれが方言とは」と思われた方が多いと思います。十返舎一九の「東海道中膝栗毛」には弥次郎兵衛喜多八の会話の中にも江戸方言がいくつか見られます。(文:板倉)

柿生郷土史料館開館日のご案内

◎開館日:偶数月は土曜日、奇数月は日曜日

2月 1・8・15・22日(毎土曜日)

3月 2・9・16・23日(毎日曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時

柿生郷土史料館2～3月の催物ご案内(入場無料)

第45回 カルチャー・セミナー

東柿生小学校遺跡発掘調査から分かる事

- 重要な建造物の存在があったのか
- 小学校を囲む「塚」の意味するものは

講師:新井 悟氏 (市民ミュージアム学芸員)

日時:2月22日(土) 13:30～15:30

会場:柿生郷土史料館特別展示室



第5回 実物のミニ歴史資料展

東柿生小学校遺跡発掘遺物 展示公開

～発掘遺物から分かることは?～

公開日 **2月** 1・8・15・22日(毎土曜日)

柿生郷土史料館特別展示室にて

